第１章
景観特性と課題

第１章　景観特性と課題

１．都留市の概況

（1）立地特性と概況

本市は、山梨県の東部に位置し、北側は大月市、南側は忍野村、山中湖村、東側は上野原市、道志村、西側は富士吉田市、西桂町、富士河口湖町にそれぞれ接し、県都甲府市より約 50km の距離、また、都心から約 90km の東京圏の近郊に位置しています。

面積は 161.63km^2、森林が市域の約 85％を占め、市域の大半が山地となっています。標高は中心地で 490m、周囲を 1,000m 級の山々に囲まれ、市域の中央を山中湖に水源を発する桂川が西から東に貫流しており、市街地はこの桂川沿いの平坦地に帯状に形成されています。また、周囲の山岳を源とするいく筋もの中小河川が桂川に合流し、それぞれの河川に沿った緩傾斜地に集落や農地が点在し、山あり谷ありの変化に富む山峡の景観が展開しています。

富士急行線が市域の中心部を桂川とほぼ並行して走り、市内には８つの駅があります。車窓にはローカル線特有の魅力ある風景が展開しています。また、中央自動車道富士吉田線と国道 139 号が鉄道と同じく並行して走り、市内には、都留 IC が位置しています。その他、県道都留道志線、県道四日市場上野原線、県道高畑谷村停車場線等の幹線道路が河川と並行し、本市と周辺地域を結んでいます。本市の北側にリニア実験線の県立リニア見学センターがあり、富士山を遠望する里山を背景とした田園の中に近代的なリニア実験線の施設がある特徴的な景観を見ることができます。

一方、本市は古くから城下町として栄え、かつては絹織物産業を中心に発展し、山梨県東部地域の政治・経済の中心地として歩んできました。そうした歴史的風土に加え、現在は、都留文科大学やリニア実験線の立地といった近代的な景観要素も都市のイメージを牽引しています。また、身近な山々と、富士の豊かな伏流水が湧き出る湧水やまち中を流れる清流は、昔も今も本市の景観の基調を成しています。このような山紫水明の風土を活かした景観形成及び観光・交流の拡大が期待されています。

■都留市の広域的位置

（2）都留市の成り立ち

【古代～江戸時代】 －城下町の形成、絹織物のまちとしての繁栄－

本市の古代は、平安時代に編まれた「和名抄」に記載されている多良（田原）郷と加美郷の一部にあたり、交通の要衝として郡内の中心を成していました。

中世、戦国時代までの郡内は、小山田氏が勢力を伸ばし、その後、都留郡は徳川氏の領地となり、豊臣政権による支配を経て、慶長６年（1601 年）以後約 100 年間、幕府諸侯の封地となりました。

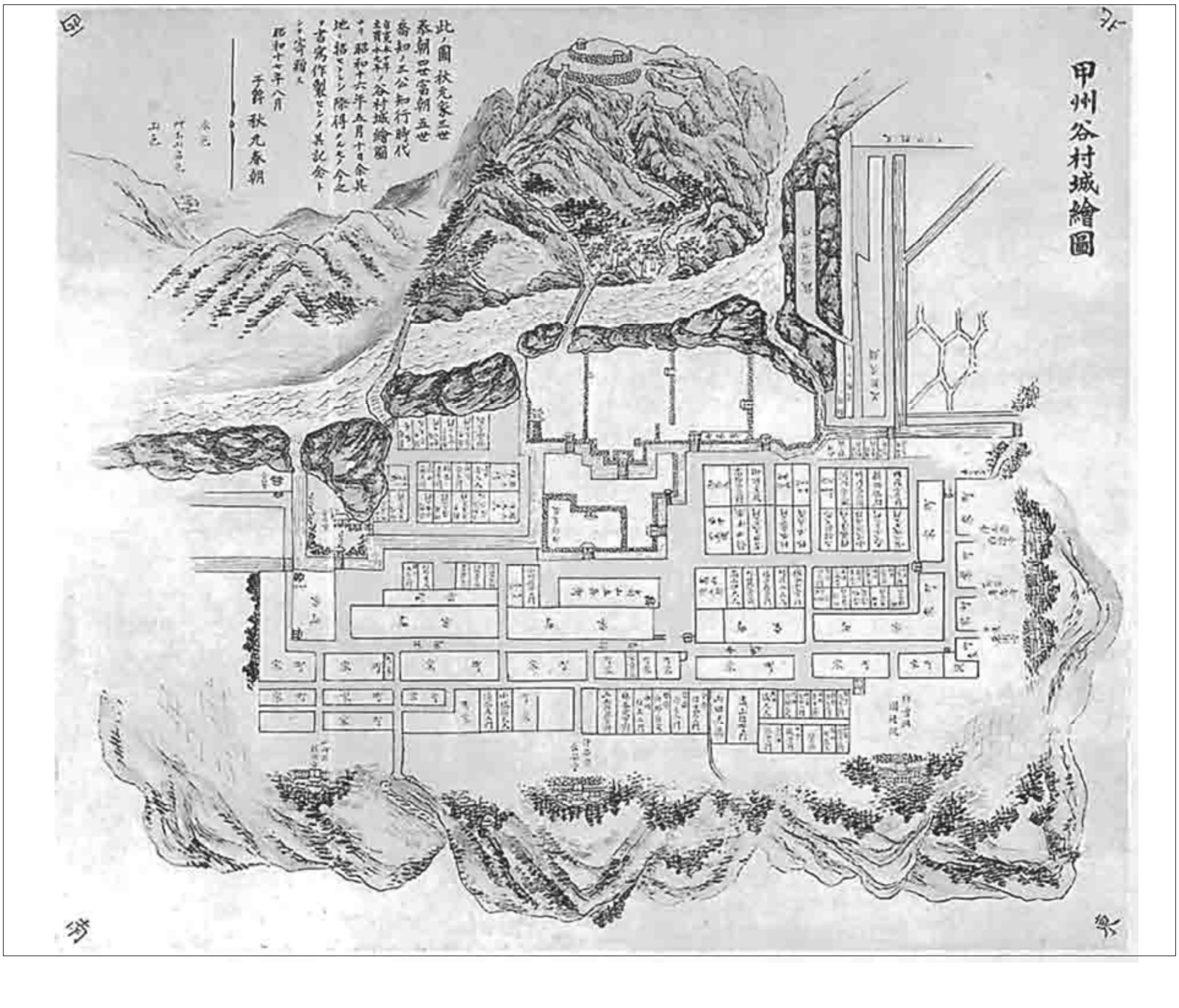
谷村は、小山田氏が居館を構えて以来、一貫して都留郡支配の中心でしたが、その後、家臣居住地が桂川右岸に変更されたことを契機に城下町の発達を遂げ、現在も城下町特有の地名が残されています。

小山田氏３代の統治が江戸期の発展の基礎を築き、その後、秋元家の統治により「谷村大堰」や「五ヶ堰」事業が行われ、郡内最大の穀倉地帯を生みだしました。また、江戸時代中期に幕府の直轄領となり、山間部農村地域の養蚕から絹織物の一大産地となるなど、甲府に次ぐ甲斐国第２の都市として発展しました。秋元氏の治世に感謝して農民の間から生まれたとされる「八朔祭」は、本市を代表する生出神社の秋の例祭として、現在もなお引き継がれています。

また、江戸時代には産業や流通の発展に伴い、甲州街道や駿豆州往還、脇街道等の街道も整備され、山梨県東部地域の政治・経済の中心地、交通の要衝地として繁栄を遂げました。質の高い甲斐絹は、江戸から近いこともあり「郡内織」のブランドとして全盛を迎え、絹織物産業を核とする商業活動を中心に独自の文化・歴史を育みました。

この他、江戸時代には、俳聖松尾芭蕉が本市に滞在し、多くの名句を詠み、蕉風俳句の開眼を果たした地とも伝えられています。

■甲州谷村城絵図



【明治～大正】 －交通、産業、生活の近代化－

明治維新後、町村の合併により、谷村、三吉村、開地村、宝村、盛里村、禾生村、東桂村の７ヵ村が成立しました。その後、明治 29 年に谷村に町制が施行され、谷村町となりました。

明治 35 年には中央線が大月まで延伸し、明治 36 年には富士馬車鉄道が開通するとともに、道路の整備も進みました。これに伴い、まちの形態も変化を遂げ、昭和４年に富士山麓電気鉄道の開通により、町の人口も増加しました。明治期には宝鉱山が開発され活況を呈しましたが、現在は閉山し、宝の山ふれあいの里のレクリエーション施設となっています。また、大正 13 年に競馬場が建設され、市民の貴重な娯楽となっていましたが、昭和８年頃に廃止され、その跡地が都留文科大学となっています。

【昭和～現在】 －交通機関の高速化と都市化の進展－

昭和初期の谷村町は、南都留郡では唯一の町であり、上水道も整備され、電燈事業の町営化も実現しましたが、その後、水害や震災、甲斐絹の暴落、戦争、大火など、苦難の歴史が続きました。

太平洋戦時下での大きな戦災は受けませんでしたが、昭和 24 年に谷村町で大火があり、それを機に道路の拡幅整備等が進められ、昭和 29 年には１町４ヵ村が合併し、現在の都留市が誕生しました。「都留」という名前は、本市の位置する桂川流域が富士山の裾野を「蔓」のように延びた様という由縁や、この地に多く生息したとされる長寿の鶴の名にあやかったといわれています。

昭和 30 年には、市立都留短期大学が開学し、昭和 35 年に４年制の都留文科大学になりました。

高度成長期には、モータリゼーションの影響を受け、国道 139 号等の市内各地の道路整備が進み、これに伴い市街地が拡大していきました。

昭和 40 年以降、農地の宅地化や基盤整備の進捗とともに、桂川沿いの集落が徐々に連担し、現在の都市構造が形成されてきました。本市は山峡にある河川沿いに開かれ、元来平坦地が少ないという地形的な制約を負い、この希少な平坦地に都市化が進展してきています。

交通では、中央自動車道富士吉田線や富士急行線（元富士山麓電気鉄道）が開通し、周辺都市との広域的な連携を担っています。また、平成８年に開設された山梨リニア実験線の拠点基地があることも知られています。

・中央自動車道やリニア実験線が走る今日の市街地

2．都留市の景観特性

本市は、ランドマークとなる山や山稜と河川水系が景観の大きな自然骨格を形成しており、山の緑に囲まれた、暮らしのすぐ身近に山紫水明の風景が展開していることに特色があります。

このような景観的特徴を踏まえ、景観的な骨格や基調となる景観を現している主要な景観を「都留市らしさが表れている景観」、これに地域らしい特色を添えている主要な景観を「暮らしや営みが映し出す身近な景観」とし、大きく２つの分類ごとに景観特性を整理しました。

都留市らしさが表れている景観

①富士山から連なる特徴的な地形が織りなす景観
②山地に囲まれ身近に山の緑を抱く景観
③清冽な水に刻まれる湧水の里の景観
④変化に富む地形が魅せる多彩な眺望景観
⑤城下町と水の文化を受け継ぐ歴史文化的な景観
⑥歴史文化を体感する伝統的な祭り･行事の景観
⑦里地･里山の農山村景観

暮らしや営みが映し出す身近な景観

①地域の成り立ちがしのばれる中心市街地の景観
②活気と文化の薫る学園都市の景観
③古くからの農村集落景観と近代的なまちなみ景観が併存する景観
④山合いの風景が連続的に展開する移動景観（シークエンス＊）
⑤交流を育む施設の景観
⑥四季折々の彩りや句（歌）にうたわれる景観

・リニア実験線小形山架道橋と富士山

注）＊ シークエンス：乗り物から見る景観など、移動する視点から連続して変化する景観のこと。

（1）都留市らしさが表れている景観

①富士山から連なる特徴的な地形が織りなす景観

●本市は、周囲を 1,000m級の山々に囲まれ、そこから派生するいくつもの中小河川が､市中央部を流れる桂川に合流しています。平坦地は、桂川沿いとその支流沿いに枝を伸ばすように展開しており、流域ごとに囲繞景観*や谷筋景観を形成し､地形によって分節化されているところに特徴があります。

・朝日川沿いの谷筋景観

●市域を貫流する桂川に併行して鉄道や中央自動車道、国道等が通り、帯状の平坦地に市街地が展開するなど、景観的にも大きな構造軸となっています。また、桂川から放射状に展開する５つの谷筋に沿って、集落景観や田園景観が展開しています。

●山稜と谷筋がいくつも組み合わされた地形的な特徴から、市街地や集落地と山地が近く、渓流や渓谷が身近に存在するなど、暮らしの中に多彩な景観が展開しています。

●十日市場周辺では、約 8,500 年前に富士山から流下した溶岩流の露頭や特徴的な溶岩造形を見ることができます。また、国道 139 号に近接する名勝田原の滝周辺は、富士山の火山活動に由来する美しい柱状節理が刻まれ、古くから渓流美を誇る名瀑布となっています。

②山地に囲まれ身近に山の緑を抱く景観

●本市は８割以上が森林で占められ、市域は標高 1,785 mの三ツ峠山をはじめとする 1,000m級の急峻な山岳に囲まれ、その地形は複雑で変化に富み、細やかに伸びる山稜と谷筋が自然景観の骨格を形成しています。

●山梨百名山の一つであり桃太郎伝説の残る九鬼山、日本二百名山で信仰の山とされる御正体山、新富岳百景の高川山、杓子山、道志山塊から上がる月を待つ行事に由来する二十六夜山など名山も多く、中心市街地に近接する城山の頂上からは市内を一望することができます。

・都留アルプスから望む中心市街地と富士山

●本市は、景観が優れた 21 座を「都留市二十一秀峰」として定めており、どの山も個性的で登山者やハイカーに親しまれています。その多くは、地域のランドマークとして市民の心象景観に影響を与えています。

●中心市街地の後背に連なる標高 500～650mの比較的低い山稜は｢都留アルプス｣と名付けられ、地元山岳会の発案により全長約８km のハイキングコースが整備されました。身近な自然環境に親しみ、市街地や周辺の山々の眺望を楽しめる場所として本市の新たな魅力の一つとなっています。

●奥行きのある森林や渓谷、起伏に富む地形を背景に、里山の森林は、ニホンリスやニホンカモシカの生息地、ミツマタの群生地など、多様な動植物の生息の場となっています。市内には多くのムササビが生息しており、特に、禾生地域の生出神社では、日本最長の滑空距離を持つムササビの滑空を見ることができます。地域住民の環境保全活動や保護活動もあり、本市は、野生の動植物と身近に共生できるということも景観的な魅力の一つです。

●二十六夜山の懐にある「戸沢の森和みの里」や宝鉱山跡地にある「宝の山ふれあいの里」は、森林にふれあい自然を体感するレクリエーションの場であるとともに、観光拠点ともなっています。また、多彩な登山道やトレッキング、ハイキングに四季を通じて訪れる人も多く、豊かな自然環境は市民にとっても来訪者にとっても交流・ふれあいの場となっています。

注）＊ 囲繞（いにょう）景観：囲繞とは「かこいめぐらすこと」を意味しており、囲繞景観とは、一定の範囲を有する空間領域の中での視覚的な環境状況を意味する。山に囲まれた盆地状の景観は、代表的な例である。

③清冽な水に刻まれる湧水の里の景観

■河川・水辺景観

●本市の河川は急流で、河道やみお筋も地形に沿って屈曲しているものが多くなっています。こうしたことから、市内の河川には、滝や渓谷など水景に関する景勝地が多くあります。

●富士山麓の山中湖に水源を発する桂川は、市の中央を西から東へ貫流し、市域を囲む山岳から流入する鹿留川・柄杓流川・菅野川・朝日川・大幡川等の支流を一つに集め、豊富な水量と大きな高低差から、急流や滝などの変化のある河川景観を見せています。また、古くは鮎川と呼ばれ多くの釣り客を集め、その豊かな水は市内３ヶ所で発電に利用されるほか、飲料水・灌漑用水・工業用水としても良質な水資源となっています。

・田原の滝

●桂川は浸食が盛んなことから、両岸に奇岩が続く蒼竜峡などの渓谷や、名勝田原の滝などの景勝地を形成しています。支流では、山岳からの湧水が流れ込み、美しい渓谷や、希少な動植物の生息環境を形成するとともに、キャンプや渓流釣りなど、多くの自然レクリエーションの場を提供しています。

●富士山麓の湧水が流れ込む清流では、アユやヤマメ、イワナ、ウグイをはじめ、カワセミ、ヤマセミ等が生息し、桂川にはコサギの群れが飛来します。また、渓流や湧水の清澄な水辺にはホタルが生息し、農村を舞うホタルの風景は郷愁を誘うものがあります。

■暮らしに身近な湧水の里の景観

●本市は富士山に降り積もった雪が、長い年月をかけ湧き出る湧水の里でもあります。この水環境は、景観的な要素のみならず、「水」そのものが貴重な資産として市民に愛され、日々の暮らしになくてはならない「命の水」として守られてきていることに重要な意味があります。

・太郎・次郎滝

●富士山の溶岩流の痕跡が、露頭や崖などに多く見られる十日市場周辺は、富士の地下水が流れ出る一大湧水地帯であり、「十日市場・夏狩湧水群」として平成の名水百選にも選定されている「名水の里」です。周辺は、溶岩の隙間から絶え間なく豊富な湧水が湧き出す水源山永寿院、地域の上水道の水源となっている熊太郎水源、梅花藻の群生池がある長慶寺、落差約 20mの断崖を湧水が滴り流れ落ちる太郎・次郎滝など、清澄な富士山の伏流水が作り出す多様で希少な景観を見ることができます。

●また、十日市場・夏狩湧水群に代表される湧水は、上水道の水源や農業用水、生活用水として利用されています。在来作物である水掛菜の栽培や、わさび田や川魚の養殖など、湧水の恵みを享受して暮らす人々の営みの風景を見せています。

●平成の名水百選の選定に際しては、親水性とともに、市全域で実施されている「定式（じょうしき）」と呼ばれる寛永次代から続く用水路等の保全活動や、地域や市民組織による様々な保全活動が高く評価されています。

④変化に富む地形が魅せる多彩な眺望景観

・城山（勝山城跡）からの眺望

- 本市は、山稜と谷筋が複雑に入り組み、谷筋の平坦地に沿って市街地や集落が帯状に展開しています。このため、山地や河川の豊かな自然がまちや暮らしに近く、身近に富士山やランドマークの山々を眺めることができるとともに、少し登ればまちを俯瞰する眺望景観を楽しむことができます。
- 谷村地区*は、城下町のまちなみや町割りが残っており、富士山の山あてによる道路の軸線などを確認することができます。東漸寺の山門からは、谷村の市街地と道路軸の延長線上に富士山を遠望する特徴的な眺望景観を見ることができます。
- 三ツ峠山や高川山をはじめ、山頂や稜線からは、山ひだの重なりとその向こうに見える雄大な富士山の遠望、裾野に広がるまちなみの眺望など、秀逸な眺望景観を楽しむことができます。
- 山頂や稜線などにある多くのビューポイントだけでなく、市街地や郊外地周辺の比較的低い山々にも、多くのビューポイントが点在しています。都留アルプストレッキングルート上の展望台からは、手前に市街地を望みながら、周囲の山並みの重なりの奥に富士山を遠望する、奥行き感のある眺望を楽しむことができます。
- また、中心市街地に近接する標高 571mの城山（勝山城跡）からは、眼下の桂川、谷村地区の市街地を一望でき、四季折々の眺望を楽しむことができます。
- 中央自動車道や富士急行線の車窓からは、山峡ののどかな風景とともに時折垣間見る絶景など、変化に富む多彩な眺望景観を連続的に楽しむことができます。また、九鬼山と高川山のあいだの田園集落地帯の中にリニア実験線の高架橋が横断する風景は、本市の特徴的な眺望景観の一つとなっています。
- この他、橋や道路、公園や施設、段丘や山麓の高台など、まちの至る所から、身近に富士山の遠望や多彩な景観資源の良好な眺望景観を楽しむことができます。

⑤城下町と水の文化を受け継ぐ歴史文化的な景観

■城下町の景観

・円通院

・勝山城跡

- 郡内地域の政治・経済・文化の中心地として歩んできた谷村地区は、勝山城跡である城山や、城下町の町割りと地名、寺社が集積するたたずまい、溶岩石の野面積みの石垣、水路や堀などにみられるように、城下町としての礎を築き上げてきました。桂川に内橋をかけて背後の勝山城と連絡していた谷村城は、現在は谷村第一小学校となっています。
- 昭和 24 年の谷村大火により、由緒ある寺社や建造物、歴史的なまちなみは殆ど消失してしまいましたが、歴史的背景をしのばせる町割りや川・水路は現在も変わることなく残され、主だった社寺は再建されて寺町の風情を醸し出しています。
- 谷村陣屋は、石和代官所の出張陣屋として郡内一円の支配を行い、現在の裁判所の位置にありました。
- 谷村地区の市街地の後背にある、蟻山には堀切など烽火台に関する遺構が残されています。

注）＊ ここでは、旧城下町にあたる上谷、中央を谷村地区と表記します。

■水の文化を受け継ぐ景観

●市内を流れる桂川水系の河川は、古くから灌漑や生活用水として利用され、市民生活を支える重要な役割を果たすとともに、産業、経済の発展に貢献しており、「水のまち都留」の礎を形成してきました。特に、多くの人々の手によって開削された用水は、水車による精米や甲斐絹織物の動力、染色などに利用されたほか、明治中期以降、複数の発電所の開発が行われるなど、当時の用水路や施設は、近代化遺産としての景観をみせています。

・元気くん２号

●名勝田原の滝から延長約 14km の開削工事により完成した谷村大堰（十日市場大堰）は、地域の生活用水・農業用水、また谷村城の堀水として用いられてきたほか、水車の動力源として、明治以降には織機の動力に活躍しました。大堰はのちに延長され、五ヶ堰として猿橋（大月市）まで潤し、郡内に広大な穀倉地帯を生みだしました。今日も、家中川、寺川、中川には田原の滝から取水した豊富な湧水が流れており、人々の暮らしとともにある水の風景をみせています。

●本市は、家中川を利用し小水力発電の普及・啓発を図ることを目的に、また、「水のまち」をＰＲする一つのシンボルとして、平成 18 年度に小水力発電施設「元気くん１号」を設置しました。現在、家中川には３基の小水力発電施設が稼働しています。

■遺跡・史跡、歴史的建造物・遺構等の景観

●「駒橋発電所落合水路橋」は国登録有形文化財で、明治 40 年に完成した優美な７連アーチの煉瓦造りの水路橋であり、現役の水路橋として使用されています。川茂発電所は、現在は無人発電所ですが堰堤を約 300 本の桜が彩り、親しまれています。谷村発電所は、水路橋とともに本市の産業遺構であり、往時の姿をとどめ、地域のランドマークとなっています。水路橋は、地元では橋脚の意味を持つ「ピーヤ」と呼ばれ、親しまれています。

・駒橋発電所落合水路橋

●山梨県指定文化財である明治 10 年建築の藤村式建築の旧尾県学校は、現在は「尾県郷土資料館」として地域の人々の協力により運営されています。

●市有形文化財に指定されている「旧仁科家住宅」は、郡内織の絹問屋であり、大正時代の谷村の商家の様子を今に伝え、現在は「商家資料館」として公開されています。その他、登録有形文化財の「旧明治医院」など、歴史文化を物語る建造物が多く残されています。また、松尾芭蕉逗留時に縁あったとされる「桃林軒」が市民有志により再建されています。

・尾県郷土資料館

●こうした景観は、単に歴史文化的な価値にとどまらず、地域の個性や成り立ちを知り景観に時間的な奥行きという価値を与える重要な景観資源でもあります。

■古道・旧道の景観

●本市を貫通し大月市方面と富士吉田市方面を結ぶ国道 139 号は、かつて「富士道」といわれ、富士講の人々が行き交った信仰の道です。

●谷村地区は、現在の大月市を通る甲州道中と、現在の富士吉田市を通る鎌倉往還の中間に位置し、この２つの往還を結ぶ駿豆州往還（富士道）が市の中央を貫通していました。そのため、３つの街道との関係を持つ地理的な優位性から、政治・経済的に重要な地域として繁栄しました。この他、谷村地区と初狩を結ぶ近ヶ坂往還など、市内には多くの古道・旧道が残されています。

●しかし、戦後のモータリゼーション以降、道路整備や開発が進み、往時の面影を残す古道・旧道の景観は、時とともに少なくなっています。

■社寺や身近な歴史文化的景観

- 城下町と富士山を直線状に眺められる東漸寺や円通院などの由緒ある社寺が連なる寺町周辺をはじめとし、小山田氏の菩提寺である桂林寺や郡内地方の名刹長生寺、梅花藻が湧水池に群生する長慶寺など、地域住民の拠り所となっている社寺や鎮守の森が、身近に親しまれるランドマークとなっています。
- また、市内には六十一基の道祖神が確認されているほか、馬頭観音や石仏、塚、古民家や蔵、水路や小川、堰など、自然や暮らしに溶け込んだ身近な歴史的景観資源が数多くみられます。
- 本市は、古くから豊富な水資源を利用した絹織物や染色業が盛んで、甲斐絹の伝統を今に伝える甲州織物が伝統産業として受け継がれ、文化的景観の一つとなっています。

⑥歴史文化を体感する伝統的な祭り･行事の景観

- 八朔祭りは、三百年ほど前に始まったとされ、郡内三大祭りの一つに数えられる本市を代表する生出神社の例祭です。毎年９月１日に行われ、地元では「おはっさく」と呼ばれて親しまれています。八朔祭りは各町が競い、お囃子が流れる市内を豪華絢爛な幕に彩られた大型の祭屋台と大名行列が巡行し、市民をはじめ多くの観光客が江戸時代の祭りの賑わいを体感することができます。例祭の締めくくりは、大輪の花火が打ち上がり、夏の終わりを惜しむひとときで、まちなかが幻想的な風景に包まれます。

・八朔祭り

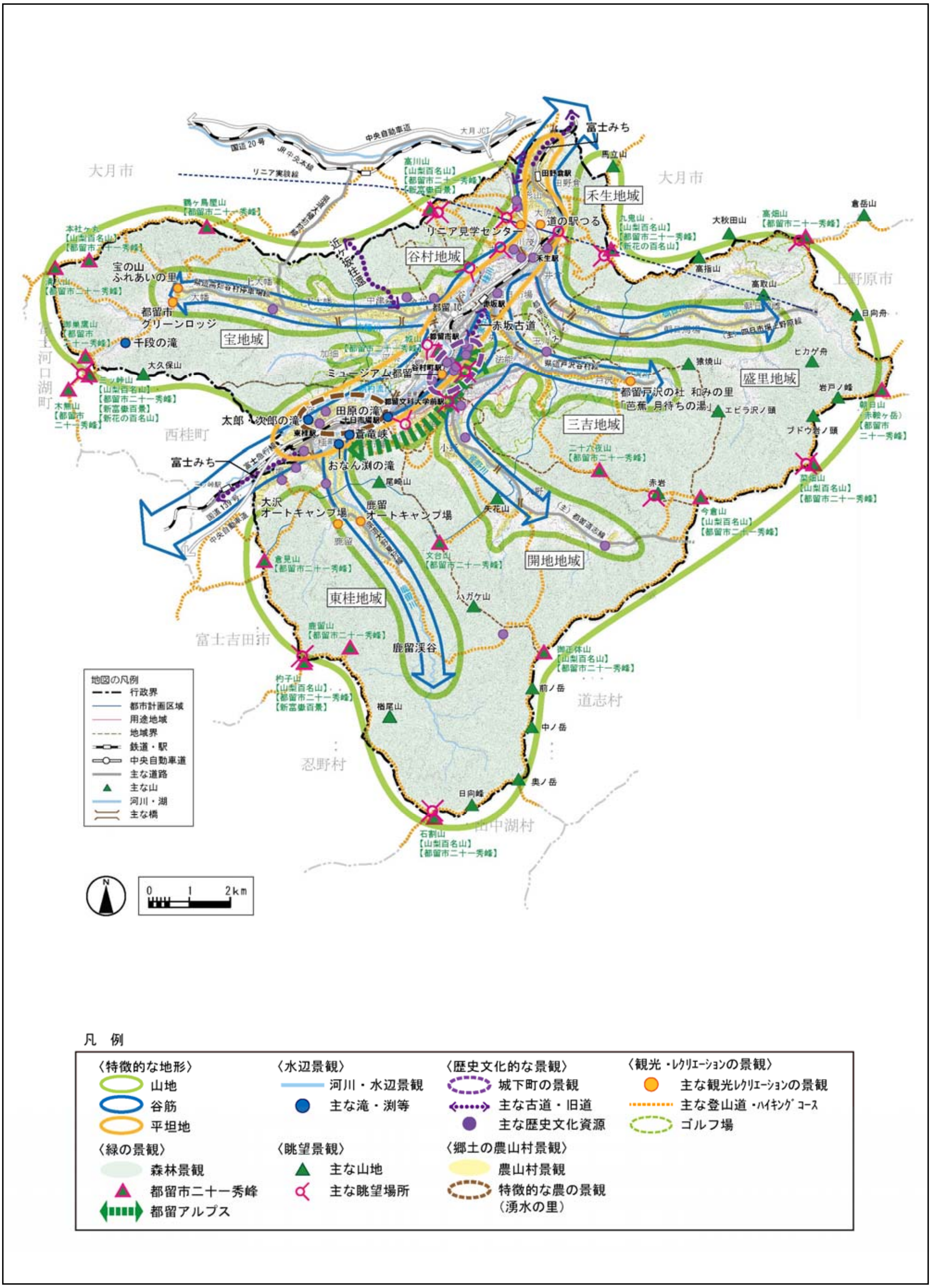
- 国道 139 号沿いの「八朔祭屋台展示庫」では、３台の大型屋台を年間を通じ常時見ることができます。
- 城山は、将軍家御用の茶壺を保管した「茶蔵」が設けられていました。秋の「つる産業まつり」では、江戸時代徳川将軍家御用達のお茶を京都から江戸へ運んだ「お茶壺道中行列」が再現されています。
- その他、各地域に伝わる小正月や獅子舞・神楽、御嶽神社の祭礼であるお天王さん（祇園さん）、節分祭などの行事・祭事が行われ、本市や地域のイメージを発信する景観要素となっています。

⑦里地･里山の農山村景観

- 平坦地が少ない本市では、集落は河川沿いの微高地に細長く分散立地し、限られた土地を有効活用しながら、川水や湧水を水利とした水稲、野菜等の栽培が営まれています。こうした農山村景観は、周囲の山並みを背景に、低地部や緩傾斜地に農地、山裾の微高地や狭小な平坦地に集落という、里地・里山が一体となった山間の素朴で穏やかな景観をみせています。
- 十日市場・夏狩周辺は、富士山が噴火した際に流れ出た溶岩の端部にあたり、その溶岩の間隙や通水層から絶え間なく湧水が湧き出す湧水群が独特な景観をつくり出しています。地域では、これらを利用して水掛菜やわさびの栽培、川魚の養殖が行われ、水掛菜の栽培は、本市の冬の風物詩となっています。

・河川沿いの農山村集落（朝日馬場）

■景観特性図－都留市らしさが表れている景観



（2）暮らしや営みが映し出す身近な景観

①地域の成り立ちがしのばれる中心市街地の景観

●谷村地区は、城下町から発達を遂げた本市の中心市街地であり、城下町の町割りや水路、寺町などに、往時の面影をしのぶことができます。街道筋の面影も残る古いまちなみは、建物も密集し、路地や狭い道も多くなっていますが、一方で、歴史を感じる昔懐かしいたたずまいのまちなみ景観をみせています。

●また、市街地後背には里山がせまっており、河川の潤いと山の緑に囲まれた、豊かな自然と共生するコンパクトな市街地景観が特徴となっています。

・寺町通り

●駅周辺や国道 139 号沿いなどに、往時の繁栄を思わせる商店街、行政施設や文化施設が集積していますが、近年は空き家や空き店舗が増加するなど、賑わいやまちなみ景観にも大きな変化がみられます。そのため、中心市街地では、「つる城下町テイスト再生プロジェクト」等の城下町の歴史性を基調としたまちづくりや、地域活性化に向けた様々な取り組みが行われています。

②活気と文化の薫る学園都市の景観

●都留文科大学周辺は、文教施設や文化施設、公園や運動施設などが集積し、駅前は土地区画整理事業によって計画的に整備された新しいまちです。都留アルプスと称される里山の緑を背景に都市的なまちなみが形成され、各施設や駅を基点に若者が行き交う風景は、活気と文化の薫る学園都市としての魅力を感じさせます。

●また、都留文科大学前駅に近接して大規模商業施設も立地し、新たな賑わい景観を生みだしています。

・都留文科大学入口周辺のまちなみ

●総合運動公園周辺は、都留文科大学の地域交流研究センターの活動の一つであるフィールドミュージアム研究エリアとなっており、本市は、大学と連携した活動・交流を進め、「大学のあるまち」を魅力資源の一つとして景観まちづくりや様々な取り組みを展開しています。

③古くからの農村集落景観と近代的なまちなみ景観が併存する景観

●市街地や住宅地は国道 139 号に沿って発達してきており、田原には計画的に整備された市街地景観が見られます。

●一方、四日市場や田野倉、玉川周辺などの市街化が進行する地域では、昔ながらの農村集落景観の中に新たな住宅地や商業店舗、小規模な工場などが併存するまちなみ景観が展開しています。特に、田野倉の国道 139 号沿いでは、いわゆるバイパス景観が展開しています。

・大原の田園地帯とリニア実験線

●農村集落は、谷筋ごとに異なる素朴な景観を見せ、河川沿いの平坦地や緩傾斜地など、細やかな地形に寄り添うように分散立地しています。盛里地域は古民家や蔵が河川や道路沿いに残り、宝地域は農村・里山が山あいに深く入り込む独特の景観を呈し、古き良き日本の原風景を連想させます。

●一方、市街地周辺では、湧水と密接に結びつく集落の暮らしが景観に表れている十日市場・夏狩周辺や、大原の広い田園と「リニア実験線」や「道の駅つる」が重なる風景など、本市ならではの景観を見ることができます。

④山合いの風景が連続的に展開する移動景観（シークエンス）

■骨格的な景観軸となる道路景観

・国道 139 号沿道のまちなみ

●本市の道路網は、市内を北部から南西に向け横断する中央自動車道と国道 139 号を中心軸として、国道から分岐し山間集落や周辺市町村を放射状に結ぶ、大きく５路線の骨格的な道路から構成されています。谷村地域つるには都留 IC が位置し、本市及び周辺市町村の玄関口としての役割を担っています。中央自動車道は大規模な土木構造物である一方、富士山や幾重にも重なる山並み、河川や道路沿いに細長く伸びる市街地など、展開する風景を見渡す重要な視点場となっています。

●山峡を縫うように走るこれらの道路は、河川とともに本市の骨格的な景観軸であり、車窓からの眺めは本市のイメージ（心象景観）に大きな影響を与えるものとなっています。

●市街地を縦貫する国道 139 号は、中心市街地ではかつての街道筋の面影を残すものの、幅員や歩行者空間が狭小で、慢性的な交通渋滞などから、沿道のまちなみ景観は雑然とした印象となっています。また、郊外部では、沿道にロードサイド型の店舗が建ち並ぶバイパス景観がみられます。

●一方、国道 139 号都留バイパスは、見通しが開けた広い幅員の道路景観が連続的に展開し、新たな景観軸を形成しています。

■鉄道や駅の景観

・富士急行線と芝桜

●本市は、桂川に沿って大月駅と河口湖駅を結ぶ単線の鉄道である富士急行線が走り、市内に鉄道駅が８駅あることが特徴の一つとなっています。

●富士急行線はローカル線としての魅力を持ち、山間をぬうように走るのどかな列車の風景とともに、その車窓からは富士山や周囲の山並みの遠望をはじめ、山地の緑や河川の風景、田園や集落地などを間近に眺め、四季折々の風景や変化に富む景観を楽しむことができます。

●また、８つの駅舎それぞれが、ローカル線特有の素朴で風情あるたたずまいを見せています。

●富士急行線は、富士山に一番近い鉄道として知られています。近年、富士山が世界遺産となったことから列車の旅を楽しむ利用客が増加傾向にあり、インバウンド観光も含め、本市固有の景観特性を活かした観光・交流が期待されています。

⑤交流を育む施設の景観

■公園・緑地の景観

・都留市総合運動公園

●上谷には、総合運動公園や楽山公園が位置し、スポーツ・レクリエーションの場や地域交流の場として親しまれています。また、都留文科大学地域交流研究センターのフィールドミュージアム構想と連携した取り組みも行われています。その他にもスポーツで賑わう玉川公園や、自然レクリエーションの場となっている戸沢の森和の里公園など特色ある公園があります。

●しかし、市街地や集落地には身近な公園・広場が不足しており、水辺空間や豊かな緑、歴史的資源などを活かした公園・緑地の整備による、潤いある景観づくりが求められています。

■公共公益施設の景観

●市役所をはじめとして、まちづくり交流センターや尾県郷土資料館などの文化交流施設、教育施設や公民館などのコミュニティ施設、福祉施設などの公共公益施設は、市民や観光客等の交流や賑わいの場となっているほか、まちや地域のシンボル・ランドマークとして地域景観を特徴づけています。また、周囲の自然景観と調和した都の杜うぐいすホールなど、市内の公共公益施設では、景観に配慮した意匠やデザイン、市民による緑化や花植えなど、様々な景観形成の取り組みが行われています。

・道の駅つる

●ミュージアム都留は、江戸時代から続く八朔祭りで引き出される屋台と、葛飾北斎などによりデザインされた飾り幕が常設展示され、城下町の歴史に想いをはせることができます。

●また、市内には、道の駅つるや戸沢の森和みの里・芭蕉月待ちの湯、宝の山ふれあいの里等の観光レクリエーション施設も点在し、地域の景観や魅力を体験できる場となっています。

●山梨県立リニア見学センターは、リニアの走行試験をすぐ近くで見学できる日本で唯一の施設であり、富士山を遠望し、九鬼山と高川山の山並みを背景に田園の中を近代的なリニアが走行する風景は、本市ならではの景観となっています。

⑥四季折々の彩りや句(歌)にうたわれる景観

■四季折々の彩りある景観

●豊かな自然が暮らしの身近にある本市は、四季の彩りや潤いを感じさせる風景をいたるところで見ることができます。

●早春のワサビ田の白い花、フクジュソウやヤマブキソウの群生地をはじめ、城山・楽山公園・川茂発電所・鹿留発電所・西願寺のシダレザクラ等の桜の名所、山里に咲くヒガンザクラ、初夏の宝の山ふれあいの里等のスイレンの群生、楽山公園等のアジサイ、夏から秋の長慶寺の湧水池のバイカモの花、紅葉に彩られる千段の滝や鹿留渓谷の渓谷美、冬の風物詩水掛菜の栽培風景や湧水の氷柱など、四季折々の風景が地域景観に彩りを添えています。

・西願寺の枝垂れ桜

・鹿留渓谷の紅葉

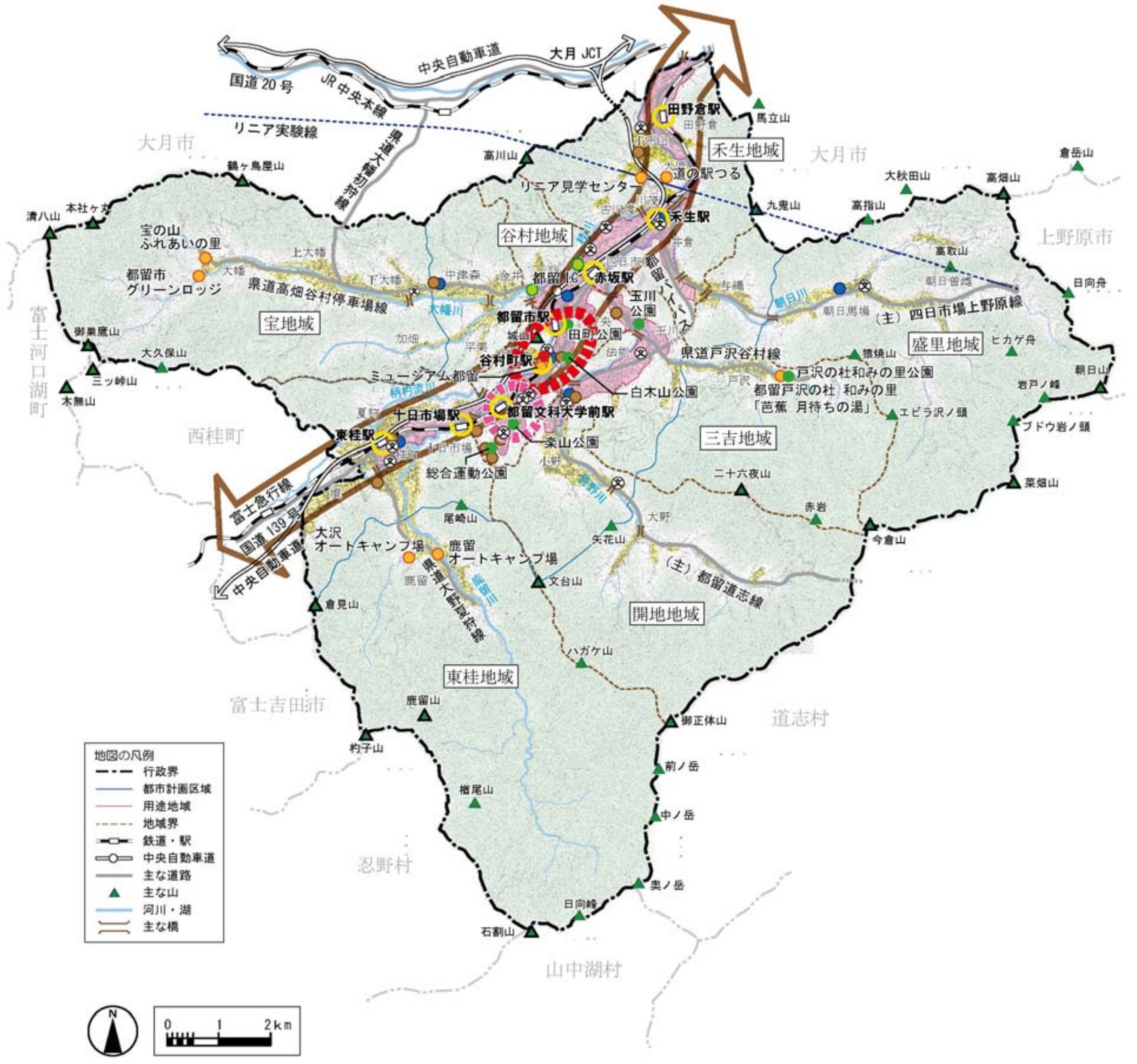
■句や歌に詠われる景観

●本市は、松尾芭蕉が流寓生活を送ったといわれ、市内には芭蕉が詠んだ句を刻んだ句碑が 10 ヶ所点在し、市民有志により芭蕉寓居桃林軒が復元されています。また、芭蕉の里づくり事業の一環として、毎年、ふれあい全国俳句大会を開催するなど、句に親しむ文化・風土とともに、往時の句に詠われた風光明媚な風景は現在にもつながる心象景観となっています。

●校歌は、地域の歴史やランドマークを詠みこんでいるものが多く、城山や桂川、清流、山並みや富士の眺望は、本市の景観を象徴する要素として捉えられており、市民にとっては思い出や記憶に残る風景として心に刻まれる心象景観ともいえます。また、都留市民の愛唱歌「今生きてます」に唱われる四季の風景も、市民共有の心象景観の一つということができます。

・芭蕉寓居桃林軒

■景観特性図－暮らしや営みが映し出す身近な景観



凡 例

〈市街地景観〉
- 中心市街地景観
- 学園都市の景観
- 住宅市街地の景観

〈集落景観〉
- 農村集落景観

〈道路景観〉
- 骨格的な景観軸

〈鉄道と駅の景観〉
- 駅の景観

〈施設の景観〉
- 市役所
- 教育施設
- 警察・消防
- 医療施設
- 主な公共公益施設
- 主な公園・緑地
- 主な観光レクリエーション施設

３．景観形成に係わる主な市民意向

本計画の策定にあたっては、計画策定の初期段階から、「景観市民アンケート調査」や「景観まちづくり市民懇談会」を実施し、多様な市民意向の把握と計画への反映に努めてきました。

（1）景観市民アンケート調査

「景観市民アンケート調査」において、市民は景観まちづくりについて、次のような意向を示しています。

■景観市民アンケート調査の実施概要

調査対象：都留市全域、18 歳以上の市民 2,000 人を無作為抽出
調査期間：平成 30 年８月８日～８月 22 日締切（投函期限）
配布・回収方法：郵送による配布・回収
回収結果：回収数 484 票、回収率 24.2％

■アンケート調査結果による主な市民意向　　※上位回答の傾向を整理

設　問		主　な　意　向
都留市の景観の現状	●景観やまちなみへの関心	・「多少関心がある」が約半数、「関心がある」が約３割で、関心があるとする意向は全体の約８割を占め、景観への関心度はかなり高い
	●「都留市らしさ」・「人に教えたい景観」	・伝統行事やイベントで賑わう景観が約２割、河川や湧水群などの水辺景観と学生のまち・文化的風土を育む景観が約１割と高い
	●市全体の近年の景観の変化	・約半数の市民が市全体の景観は変わらないとし、観光・交流施設周辺や都留文科大学周辺等の市街地景観などの新たに創出された景観は良くなったとする一方、古くからの中心商店街や中心市街地の景観、農地・里山の景観は悪くなったと回答
	●地域の身近な景観の変化	・６割強が変わらないとし、道路や沿道の景観は良くなった、身近な自然景観は悪くなったとの傾向。また、周辺のまちなみや地域の雰囲気と景観は良くなった・悪くなった双方の回答が高い傾向
	●景観を損ねている要因	・空き店舗や空き家、空地、維持管理のされない山林や農地、太陽光発電施設、ごみの不法投棄など、賑わい・活気の衰退とまちなみ景観への影響、山や農地の維持管理、太陽光発電施設や美観への配慮等を阻害要因とする傾向
今後の景観づくり	●特に重要と思う景観づくり	・水資源の保全と富士湧水の里づくり、花と緑の名所づくり、水辺景観の保全と活用、祭りや伝統行事の継承と活性化、自然景観の維持・保全と活用、歴史的まちなみ景観の形成を重視している傾向
	●良好な景観まちづくりの推進に必要な手法	・条例等の指針づくりや行政による規制・指導、開発抑制や適正な規制・誘導の必要性、公共施設のデザインの質の向上など、行政による率先した景観まちづくりの取り組みを必要とする回答が多い
	●良好なまちなみ形成に必要なルール	・緑化や樹木保全のルール、建築物や工作物の形態・意匠、看板・広告物の設置場所、形態・意匠のルールの必要性を望む回答が多い
	●建築物の高さのルール	・配慮すべきエリア内に限っての制限や市全域で何らかの制限が必要との回答が７割強を占める
	●看板など屋外広告物の規制	・「県条例の規制を十分に周知し、今までどおり県条例の範囲で規制すべきである」が５割強を占め、規制すべきという傾向は９割を占める
景観形成への参加	●景観づくり活動への参加意向	・「関心はあるが参加は難しい」が４割強で、「参加したい」傾向と「関心はあるが難しい」とする回答がともに４割強と高い
	●景観形成のための協力意向	・「景観に配慮した生活をする」が約７割近くと高く、身の回りで景観に配慮した生活を行うことを第一に、身近な景観を発見・理解し、地域の景観に関する活動に取り組むなど、身近にできることから進める協力意向が高い
	●市民の景観づくり活動実践への支援策	・積極的な情報公開を最も重要とし、地域の景観形成活動へのサポート、市民が主体となって取組むしくみづくり、協働体制による景観づくりを考える場や機会づくりなどを望む回答が多い
都留市が目指すべきまちづくり		・都市機能が集約した活力の維持、福祉の充実、定住・移住を促す産業振興、生活基盤の充実など、活性化や人口増加施策、福祉や暮らしやすさの充実を目指すべきとする回答が多い

（2）景観まちづくり市民懇談会

「景観まちづくり市民懇談会」において、計６回の会議を積み重ね、その成果として「景観まちづくり市民意見書」が提出されました。

■景観まちづくり市民懇談会の実施概要

開催期間：平成 30 年９月６日～平成 31 年４月 24 日　計６回開催（意見書提出含む）
参 加 者：一般公募・関係団体代表等による 31 名の市民
開催概要：ワークショップ方式による検討、「景観まちづくり市民意見書」のまとめ、市への意見書の提出

■景観まちづくり市民意見書の検討にあたっての大切な視点

- 住む人も訪れる人も、誰もが「心地よさ」を感じる景観まちづくりを考えること
- 自然が暮らしの身近にある、特徴的な地形構造を手がかりとした景観まちづくりに留意すること
- 城下町や八朔祭の歴史文化、「水の都」などの“都留市らしさ”を象徴する景観まちづくりを話し合うこと
- 地域固有の景観のイメージ・ビジョンを確立し、豊富な景観資源を活かす景観まちづくりを検討すること
- 先導的な取り組みや実現可能な手法・仕組みを考えること

■景観まちづくり市民懇談会の主な意見　－景観まちづくりの検討テーマより－

検討テーマ	主 な 提 案 事 項
1.都留市らしい自然骨格を守り・活かす景観づくりを進める	○富士山の溶岩造形など特徴的な地形構造を活かす／自然が身近にある景観を活かす／まちを囲む山々・森林景観を活かす／都留アルプスの景観活用／清流と身近な水辺景観を守り・活かす／富士湧水群と水源地の景観を守り・活かす／ムササビなど生物の生息環境を守る／四季折々の景観を活かす／都留市らしい良好な眺望を活かす　など
2.城下町の歴史・文化を継承し活かす	○富士に向かい築かれた城下町の景観を活かす／寺町通りの歴史的まちなみ景観の活用／水と関わる文化遺産の保全と活用／潜在的な歴史・文化的資源を活かす／八朔祭りや神楽等の祭り・伝統行事の継承　など
3.地域特性を活かした都留市らしいまちなみ景観を創る	○水のある中心市街地のまちなみ景観づくり／都留文科大学を核とした学園都市の景観づくり／まちの玄関口・顔となる駅周辺の景観づくり／多彩で特徴的なまちなみ景観づくり／公園周辺の景観形成／尾県資料館や道の駅つるなどの施設周辺の景観づくり　など
4.地形に寄り添う里山・集落景観を維持し活かす	○幹と枝の構造にある山間里山・集落の景観づくり／十日市場・夏狩湧水群などの市街地周辺の農村集落の景観づくり／わさび田と湧水、水掛け菜の風景など都留市らしい農の風景づくり　など
●市民懇談会の重点プロジェクト	●「知ることからはじめる　ふるさとの景観づくり」（相乗効果を生む、共感し・協働する誘導シナリオ） ●「まず、できることからはじめよう！」（お宝発見プロジェクト!!）

４．景観まちづくりに向けた主要課題

本市の概況や成り立ち、景観特性や多様な市民意向などを踏まえ、今後の景観まちづくりに向けた主要課題を次のように整理します。

（1）富士山を望み、流域ごとに分節化された地形構造を基調とした景観形成を重視すること

- 富士山に向かって開けた桂川沿いの平坦地を軸に、大きく５つの谷筋と河川が派生する特徴的な地形構造は、人為を超えた歳月の中で形づくられてきたものであり、本市の景観の土台を成すものです。景観まちづくりにおいては、この地形が織りなす景観を市民共有の財産として損なうことのないよう、十分に配慮をすることが必要です。
- 本市は、８割以上が森林で占められ、市域を囲む複雑で変化に富む山地・山稜は、まちなみ景観の背景となっています。日常に自然を感じさせ、中心市街地に隣接する都留アルプスや里山の森林景観、美しい景勝地を創り出す河川や湧水の景観などは、本市の自然景観を表す代表的なものであり、豊かな自然が暮らしの身近にあることが本市の景観的な特徴ともなっています。
- また、変化に富む地形構造は、見る場所により、まちなみ景観、谷筋に見え隠れする山峡の集落景観、重層する山並みと富士山の遠望など、本市のイメージを発信する多彩で優れた眺望景観を生み出しています。
- こうした奥行き感のある地形構造がもたらす景観は、本市の景観の基調を成し、普遍的な風景資産であることから、厳正に保全するとともに、その価値や魅力を再認識し、効果的に景観まちづくりに活用していくことが必要です。

（2）自然と共生する暮らしが育んだ都留市固有の郷土景観を継承し、活かすこと

- 本市は、郡内（山梨県東部地域）唯一の城下町として築かれ、谷村地区では城跡や水路堀、城下町の町割りや地名、寺町のたたずまいなどに往時の風情をしのぶことができます。また、八朔祭りをはじめとして、各地域に伝わる神楽等の伝統行事、甲斐絹の伝統産業など、古くより培われた文化を継承する景観が残されています。
- 一方、「湧水の里」を象徴する十日市場・夏狩湧水群周辺の水とともにある暮らしの風景や、人智に培われた用水や堰等の水の文化を受け継ぐ景観は、本市を代表する文化的景観であるといえます。
- これらは、景観に時間軸という奥行きを与え、地域景観に意味や物語性を付与し、本市の景観の価値と質を高めるものです。したがって、こうした景観資源を顕在化し、今日的な付加価値を与え、景観まちづくりの大切な資産として次代に継承することが必要です。
- また、奥深い山峡の地形に沿い、自然と共生する営みを続けてきた農山村集落景観や、本市固有の農の風景は、永い年月をかけて育まれた地域固有の郷土景観を見せています。
- このような脈々と育まれてきた暮らしの営みや歴史を伝える郷土景観を荒廃させることのないよう、各方面との連携を図りつつ、地域振興に結びつく景観まちづくりの取り組みを積極的に進めることが必要です。

(3)地域特性を尊重しつつ、都留市らしい魅力が表情として表れるまちなみ景観を創出すること

- 本市は、桂川沿いの市街地を中心に、谷筋に沿って点在する農山村集落景観、街道筋から発展した中心商店街や幹線道路沿道のまちなみ景観、計画的に整備された新たな市街地景観、古くからの農村集落や工場が混在する住宅地景観など、地形に沿い、地域ごとに特色ある景観が展開しています。
- また、山稜が複雑に伸び、起伏に富む地形構造は、市域を地形的に分節化し、流域ごとに景観のまとまりや地域コミュニティの結びつきを形成してきました。
- 一方、全国的な課題同様、本市においても人口減少や市街地の空洞化などが顕在化し、空き地・空き家や遊休農地の増加、中山間地における過疎化の進行など、景観への影響も懸念されています。
- 都留市らしい景観の創出に向けては、このような地域固有の景観的な特性に配慮しつつ、市全体の魅力として発信できるような景観形成とイメージ喚起力の向上、また、まちづくりと連携した課題への対応が重要となります。
- 中心市街地においては、「まちの顔」として、河川や水路、空き家や空き地等を活用し、歴史的背景やまちの成り立ちを尊重したまちなみ景観の形成が求められています。また、新たな市街地である都留文科大学周辺は、整序感のある文化的で活気ある市街地景観の形成が求められます。そのため、地域の景観まちづくりの考え方を明確にし、住む人の暮らしや心地良さ、地域の個性を磨きながら、魅力あるまちなみ景観の創出を図ることが必要です。
- 中山間地等の集落地においては、集落景観を特徴づける資源を守りつつ、コミュニティの維持や地域活性化に活かしながら、固有の特性を尊重した景観を育むことが必要です。
- また、心地良い景観の形成には、安心・安全という視点も重要となります。特に、国道 139 号を中心とした中心市街地は、安心して歩ける歩行環境に乏しく、本市の景観を安心して体感し、楽しむことのできる歩行空間や滞留空間の確保が必要となっています。

(4)交流と郷土景観への愛着・誇りを育む「おもてなし」の景観まちづくりを進めること

- 八朔祭りは、全国から多くの観光客が訪れる本市を代表する祭りであり、豪華絢爛な屋台と市民参加による大名行列は、時代を超えた賑わいを市民・観光客ともに一体となって体感することができます。
- また、市を取りまく名山のトレッキングや渓流釣り、四季折々の花や湧水の風景などは、郷土景観に魅力と彩りを添える重要な景観資源となっています。
- さらに、日本で唯一の「リニア実験線見学センター」や、「道の駅つる」、「ミュージアム都留」、「戸沢の森和みの里」などは、本市ならではの魅力を体感・発信し、地域交流を育む重要な景観資源といえます。
- 本市の景観まちづくりにおいては、豊かな自然をはじめとして、城下町や信仰の道などの歴史文化、湧水の里や四季折々に郷土景観の体験、まちの玄関口となるローカル線の８つの駅などを活用し、都留の山・水・里・人などに触れる機会を創出することに加え、インバウンド観光や交流人口拡大へ対応することも欠かせない課題となっています。
- 景観を介した交流は、地域振興や観光振興に資するだけでなく、歴史文化の継承や郷土景観への愛着と誇りを育むことにもつながります。また、景観的な魅力の高まりによって、定住促進や移住者の増加といった効果も期待できます。そのため、これらの多彩な資源を見直し、活かすことにより、都留市らしさを印象づける「おもてなし」の景観まちづくりを進めることが必要です。

（5）心づかいや配慮がみえる、共有すべき景観のルールづくりを進めること

- 本市は、美しい自然景観など景観資源に恵まれた都市ですが、一方で、景観に対して無自覚な都市化の進展は、美しい自然景観や整序感のあるまちなみ景観、落ち着いた郷土景観などを失う要因ともなります。
- また、景観は、日常の心づかいや配慮が身近な風景となって映ります。そして、景観まちづくりは、地域住民の様々な営みにより支えられ、多くの人の理解と協力無しでは成し得ることはできません。
- 本市は、中心市街地や中心商店街の衰退、空き家や空き地の増加によるまちなみ景観の変化をはじめとして、煩雑で混然とした沿道のまちなみ景観、山地・河川へのごみの不法投棄、無秩序な太陽光発電施設の設置、森林や農地の荒廃、山間集落の過疎化による郷土景観の衰退や消失など、景観に関する課題は多岐にわたって顕在化しています。また、大規模な土木構造物や地形の改変等についても、圧迫感や眺望阻害などが生じないよう、場所の特性に応じた景観的配慮が求められます。
- このような景観を阻害する要因を、少しずつ除去または改善し、良好な景観の維持・創出を図るためには、景観まちづくりの作法として、共有すべき一定のルールづくりが必要です。

（6）景観への意識を醸成し、協働で景観を育む仕組みをつくること

- 豊富な自然景観や歴史文化的景観に恵まれた本市においては、それを当たり前のこととして享受してきました。しかし、こうした景観は、放置しておくと失われていく景観も多く、一度失った景観を取り戻すことは容易ではありません。
- 景観を育むためには、そこに暮らす住民一人ひとりが地域の景観に関心を示し、その価値を理解する意識の醸成が重要です。そして、身近な景観を想う気持を共有し、手を携えて行動し、その活動の輪を広げていくことが景観まちづくりの第一歩となります。
- また、景観市民アンケート調査において、市民の景観づくり活動への支援として、地域の景観形成活動へのサポート、市民が主体となって取り組む仕組みづくり、協働体制による景観づくりを考える場や機会づくりを望む声が多くなっています。
- こうした市民活動の小さな芽を育て、市民が主体となった景観形成活動へと発展させていくため、市民の景観まちづくり活動への支援や協働体制を整えていくとともに、行政の推進体制の強化や景観行政を具体的に実践していく仕組みづくりが必要です。